

わたしたちは、日常生活の中で、さまざまな細菌やウイルスなどと共存しています。

しかし、赤ちゃんや子どもは、大人のように病気に対する抵抗力(免疫)^{めんえき}が完全にはできあがっていません。そのため、感染症にかかると大人では考えられないような重い症状となることがあります。

また、子どもは成長とともに外出の機会も多くなり、さらに集団生活が始まると、さまざまな感染症にかかる可能性が高くなります。

お子さんが健康に過ごせるよう、予防接種の重要性を再確認し、計画的に接種をしましょう。

予防接種って？

予防接種は、感染症の原因となるウイルスや細菌などが作り出す毒素の力を弱めてつくったワクチンを体に接種して、その病気に対する抵抗力(免疫)をつくるものです。

生まれた直後の赤ちゃんは、お母さんからプレゼントされた病気に対する抵抗力を持っていますが、時間が経つにつれて失われます。抵抗力がなくなれば病気にかかる可能性が高くなるので、赤ちゃん自身で免疫をつくらせて病気を予



防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

予防接種をすることにより、多くの感染症の流行を減らすことができ、病気で接種できない子どもや接種年齢に達していない赤ちゃんへの感染も減らすことができます。

ワクチンって？

ワクチンには、生きた病原体の毒性を弱めたもので、その病気にかかったような状態にして免疫をつくる「生ワクチン」と、免疫をつくるのに必要な成分のみを取り出して可能な限り毒性をなくし、何回か接種して体にその病気を記憶させて免疫をつくる「不活化ワクチン」の2種類があります。

ワクチンを接種するときは、その効果と安全性のため、接種間隔が定められています。下枠を参考に、予防接種の日程を組む際は注意しましょう。

予防接種の計画を立てましょう

現在、子どもの定期予防接種には次の9種類があります。

- ・BCG^{すいとう}
- ・水痘(みずぼうそう)ワクチン
- ・MR(麻しん風しん混合)ワクチン
- ・ヒブワクチン
- ・小児用肺炎球菌ワクチン
- ・B型肝炎ワクチン
- ・四種混合ワクチン
- ・日本脳炎ワクチン
- ・二種混合ワクチン

これらの予防接種は、ワクチンの種類によって接種間隔や接種回数が異なり、その接種時期のほとんどが乳幼児期に集中するため、計画的に接種をすることが重要です。

市では、接種時期を逃さないよう予診票を個別通知しています。お子さんの体調をみて、早めにスケジュールを立てましょう。

健康づくり課

■ 予防接種ワクチンの種類と接種間隔

生ワクチン		
定期接種	BCG、水痘(みずぼうそう) MR(麻しん風しん混合)	27日以上あける
任意接種	おたふくかぜ、ロタウイルス、黄熱	生ワクチン 不活化ワクチン
不活化ワクチン		
定期接種	ヒブ、小児用肺炎球菌、B型肝炎 四種混合、日本脳炎、二種混合	6日以上あける
任意接種	インフルエンザ、狂犬病、A型肝炎	生ワクチン 不活化ワクチン

※生ワクチンを接種した日から次の接種を行う日までの間隔は、27日間以上あける。

※不活化ワクチンを接種した日から次の接種を行う日までの間隔は、6日間以上あける。